



震災復興支援 NPO 団体

はままつ 東北交流館



はままつ  東北交流館

団体概要（現在）

- NPO 団体 はままつ東北交流館
 - ✓ 福島県双葉郡双葉町からの
避難者スタッフ 3 名
 - ✓ 浜松市民の支援員（ボランティア） 5 名
 - ✓ ※任意団体として活動
- 浜松市中区寺島町（JR 浜松駅から南に 1 km）に
事務所、 東北物産販売スペース、 交流スペース
- 活動概要

「避難者が避難者を支援する」「震災を風化させない」をテーマに

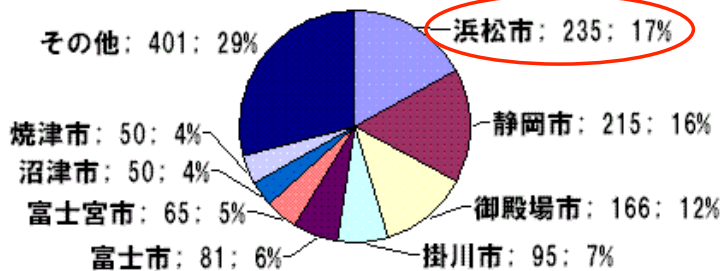
 - ・交流イベント
 - ・子育て支援
 - ・減災コーディネート（講演）
 - ・被災地の視察
 - ・東北物産販売



静岡県の避難者の状況（平成24年6月4日現在）

● 避難先

静岡県：1358人

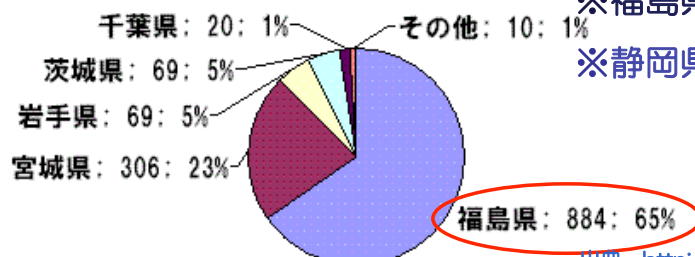


● 出身地

※静岡県では浜松市への避難者が多い

※福島県からの避難者が圧倒的に多い

※静岡県は岩手県を支援



出典 <http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/hisaisha.html>

2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

2

取り組みを始めた経緯、昨年度の体制

- 東日本大震災・浜松市民協働復興支援事業（浜松市の緊急雇用事業）として、2011年7月スタート、当初半年間の予定

✓ はままつ絆プロジェクト

岩手県気仙地方



浜松市内（はままつ・東北交流館）

大船渡市・陸前高田市の
被災者で現地スタッフ3名

福島県から浜松市に避難している4名
浜松市民から2名

- ・被災地巡回
- ・支援ニーズの収集
- ・交流イベントの実施
- ・現地のお他団体との調整

- ・被災地の情報発信
- ・避難者の相談・ケア
- ・交流イベントの実施
- ・東北物産販売

浜松モールプラザ『サゴー』内に店舗
（・・・現在 解体中）

両者の管理者

運営主体：『NPO法人地域づくりサポートネット』さん

2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

3

昨年度の取り組み事例①

● 交流サロン

- ✓ 被災者同士や浜松市民と被災者が交流するサロン
- ✓ 避難者が孤独にならないための交流の場、相談窓口、心の拠りどころ



● 東北物産販売

- ✓ 岩手県・宮城県・福島県の物産を販売する場
- ✓ 物販を行うことで雇用を発生させ、浜松市民が購入することが支援につながる



2012.06.28

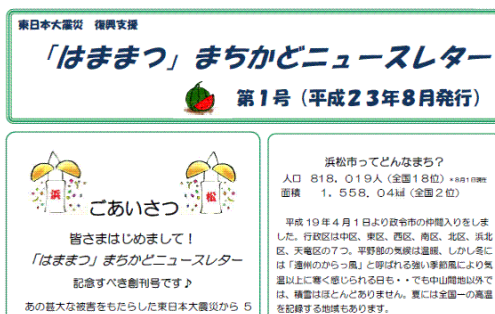
広域避難者支援ミーティング in 東海

4

昨年度の取り組み事例②

● ニュースレター

- ✓ 浜松市に避難されている方々を対象に、毎月1回編集・発行する生活情報提供を主眼としたニュースレター
- ✓ 「浜松市社会福祉協議会」などが取材・編集・発行、「はままつ東北交流館」がお届け



● 交流イベント

- ✓ 伊豆の国市のNPO法人「伊豆どろんこの会」が、「はままつ東北交流館」など県内の複数の支援団体と連携して、静岡県内の避難者を集めて、交流イベントを開催した



2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

5

昨年度を振り返って

- 浜松市および市内の主なNPO法人が岩手県気仙地方への現地支援に集中した（被災地支援 ↔ 避難者支援）
 - ✓ 浜松市内への避難者との距離が開いてしまった。
 - 市からの委託事業であり、活動対象が浜松市内での活動と限定された
 - ✓ 浜松市外への交流に、はがゆさがあった
 - 期間内の雇用で終わってしまい、次への継続がなかった
 - ✓ 期間修了に伴い、途中ではしごを外された形になった
 - 浜松市の避難されている人の中には、情報を待っていればいい部分もあった
 - ✓ 受身になってしまった人もいるのでは（？）
- ※活動拠点／店舗の確保の難しさには、市中心部の空洞化、商店街の衰退という背景もある

2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

6

新たに自ら活動を開始、今年度の体制

- 浜松市の緊急雇用事業が終了、活動拠点消滅、運営主体から分離／独立
- 避難者3名で新体制へ、自費で活動拠点を確保
 - ✓ 『被災者が立ち寄り、気軽な会話を楽しみ情報交換を重ねられた、この場をなくしていいのか...』
- 活動の目標
 - ✓ 震災復興支援 + 県外避難者支援
- 組織内の当面のテーマ（今年度）
 - ✓ この団体が自立・自活すること（避難者交流、震災風化減速活動）
 - ✓ 浜松市外に交流を広げること（広域避難者交流）
- ◆ 交流イベントの活動資金：赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成
- ◆ 市民ボランティアを加えた任意団体として活動中

2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

7

今年度の取り組み事例①

● 交流イベント

- ✓ 新体制の手始めに、浜松に避難されているかたを招待し、**ボーリング大会 と 交流会** を開催（2015年5月）
 - なお、はままつ東北交流館の交流イベントは、**赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」**の助成を受けて実施しています。



2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

8

今年度の取り組み事例②

● 子育て支援

- ✓ 子育てサークル『スマイルトライ〜GPK（がんばっぺ、かあちゃん）〜』を立ち上げ、活動中
- ✓ 福島からの避難者には、自主避難、母子避難のかたが多い。交流や息抜きの場を提供
- ✓ 他の子育て支援団体との交流・情報交換



2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

9

今年度の取り組み事例③

● 減災コーディネート（講演）

- ✓ 館長が減災コーディネーターとして**自身の震災体験**、特に震災時の消防団としての経験を元に講演
- ✓ 天災は必ず起こる、それを防ぐことは出来ないが、経験を元に被害を減らすことは出来る → 『減災』
- ✓ **震災を風化させない（風化を遅らせる）取り組みの一つ**



2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

10

今年度の取り組み事例④

● 東北物産展（出張販売）

- ✓ はままつ東北交流館の館内では、被災3県（岩手県、宮城県、福島県）のいろいろな名産品を販売
- ✓ また、浜松市市内および近隣の各種イベントに出向き、**出張販売**
- ✓ 物産販売に依る東北の製造元・販売元の支援と同時に、はままつ東北交流館を知ってもらう、**震災を風化させない“啓発活動”**



2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

11

今年度の取り組み事例⑤

● 福島視察研修会

- ✓ 7月中旬に第一回目を開催決定
- ✓ 双葉町出身の館長が案内役をして、地元被災地の現状を巡る視察研修会
- ✓ 福島県の現状を見て感じて考えてもらう、震災は終わっていない事を体感してもらう研修会



(写真は、2011年10月の一時帰宅のときの様子)

2012.06.28

広域避難者支援ミーティング in 東海

12

課題

- 活動拠点 : 一市民の方のご好意もあって確保できているが、交流サロン、物産販売としての立地条件には恵まれず。運用資金不足。
- 活動資金 : スタッフの人件費問題、活動資金不足。小さな任意団体の安定な収入源として助成金をどう考えるか。。。団体自体の自立が鍵
- 浜松市民の意識 : 浜松市は岩手県気仙地方への一極集中であり復興が少なくとも進んでいることが伝えられている。一方、福島、特に双葉郡は震災当時のまま時間が止まっている場所が多い。そのことが伝えられていない。このギャップを埋めたい。震災風化の減速を啓発
- スタッフの人数 : 現状は、常駐スタッフ3名で活動。支援員（ボランティア）5名は会社勤めの休みに交替で活動に参加。スタッフ不足。
- ◆ 地道に震災風化の減速に努めていきたい。
- ◆ 広域の他団体との『協働』を模索したい。

2012.06.28

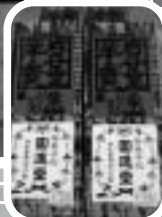
広域避難者支援ミーティング in 東海

13

震災復興支援 NPO団体

はままつ東北交流館

東日本大震災から一年が過ぎましたが、まだまだ震災は終わっていません。
避難者が避難者の為に何か出来ないかという思いから、交流館を立ち上げました。
交流館内では、東北の物産を販売しております。また、子育てサークル活動も行っております。
皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。



南部せんべい、岩谷堂ようかん、
いわて盛岡冷麺など、東北地方の名産品を販売しています。



キッズスペース
子育てサークル『スマイルトライ〜GPK〜』には、
お気軽にご参加ください。



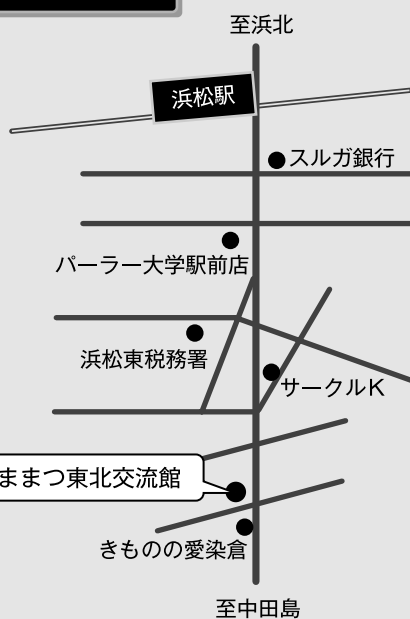
お問い合わせ

〒430-0925
浜松市中区寺島町17 フレクション浜松1 2F
TEL/FAX : 053-523-6182
開館時間 : 10:00 ~ 18:00 (月~金)
10:00 ~ 19:00 (土、日)
定休日 : 毎週水曜日



はままつ東北交流館

場所地図



遠鉄バス : く・る・る南ループ 【竜禅寺町バス停】、
浜松駅バスターミナル6番のりば「4中田砂丘」行 【竜禅寺町バス停】
※当館へは公共交通機関のご利用をお勧めします

